

## 今月のことば

恩とは  
因の下に  
と書く  
因の心を戴く  
ことである

(作者不明)

龍谷大学非常勤講師  
小池秀章 こいけひであき

ある人が、恩という漢字を、次のように味わわれました。(恩という漢字の正式な成り立ちは、複雑なので今は省略します)

「恩とは、因の下に心と書く  
因の心を戴くことである」

まさに、その言葉通り、因の下に心と書いて、「恩」という漢字になります。今、私を私として成立させてくださっている因(原因)となっている人の心(因の心)を、受け止める(戴く)ことを、恩と言うのでしょうか。

もしくは、「さまざまなのが因となって、私を成立させてくださっている」という受け取り(因の心)を、私の所で受け止める(戴く)ことが恩である、と言った方がいいのかもしれない。

私を私として成立させてくださっているもの、それは、私以外のすべてのものです。私は、私以外のすべてのものによって、私なのです。しかし、普段、私たちはそのことを忘れてしまっています。

そんな私たちに、「あなたは、一人で生きているわけではありませんよ。多くのものと繋がりが合い、支えられて生かされているのですよ。そのことを忘れてはいけませんよ」と、常にはたらかせてくださっているのが、仏さまなのです。

そんな仏さまの恩を、忘れないでいたいと思います。

合掌